

「気になる」子どもをめぐる用語の扱いや意味に関する文献研究

金丸 実奈江* ・ 鳥海 順子**

I. はじめに

発達障害者支援法の成立や特別支援教育の推進により、保育現場における支援体制の整備が段階を追って進められている。しかし、障害と診断されていないが、行動や対人関係の築きに問題を抱えている「気になる」子どもへの対応は未だ未解決な問題を多く抱えている。保育現場では、「気になる」子どもという言葉で課題のある子どもを表現することがある。保育所や幼稚園の保育者が「気になる」という言葉を使うのは、障害があるかもしれないが、診断がついていない場合や、子どもが乳幼児であるため、子どもが示す「気になる行動」が障害によるものか、環境によるものかがわかりにくい場合が多いからである。しかし、あらためてその「気になる」の言葉をどのような意味で使っているのかを把握しておくことは、「気になる」子どもへの理解を深め、保育者の意図を十分に理解して支援を行っていくことになるのではないかと考えられる。

本研究では、「気になる」子どもへの理解や適切な支援の探求及び、「気になる」子どもを担当している保育者との連携に役立てるために、「気になる」という用語を用いた先行研究を基に、「気になる」という用語の扱い及び、「気になる」子どもの示している行動を具体的に整理することを目的とする。

II. 「気になる」の用語の使われ方

1. 方法

先行研究を後述する分類項目によって整理し、「気になる」という用語の扱われ方や、「気になる行動」の傾向を分析した。

(1) 対象

「気になる」子どもや「気になる」行動など（同義での呼称と考えられるものを含む）の呼称をつかった先行研究（学術雑誌や報告書など）60編。

(2) 分類

分類項目は以下の通りとする。

* 山梨大学教育人間科学部附属特別支援学校

** 山梨大学教育人間科学部障害児教育講座

「研究方法」・「判断者」・「対象者・場面」・「呼称」・「気になる」の示す意味」・「具体的な行動」・「備考」（分類項目に関する付加情報）とする。

2. 結果と考察

分類項目毎に結果と考察を述べる。

(1) 研究方法

「気になる」子どもの用語を用いた研究の研究方法について分類した。結果は、以下の通りである。(表1)

調査研究22編，実践研究31編，その他の研究7編に分かれた。詳細について述べる。

実践研究の内訳は，事例研究22編，関わり研究4編，行動観察3編，記録や語りの分析2編である。一番多かった事例研究は，幼児の行動を観察し，そのための支援を検討した経過を整理したものや，気になる行動の頻度やその内容について実践の記録から整理したもの，対象幼児の気になる行動を整理した後にその課題について述べたもの等であった。事例研究の内容はその他である関わり研究や行動観察等と内容が重なっているものが多かった。

その他の研究は，作品比較1編，保育環境3編，巡回指導1編，開発的研究2編であった。この研究は，幼児の美術作品の比較検討や保育環境の整備，巡回指導の実践等の内容であった。

表1 「気になる」子どもの用語を用いた研究の研究方法

調査研究	22	
実践研究	31	
事例研究	22	
関わり	4	
行動観察	3	
記録や語りの分析	2	
その他	7	
作品比較	1	
保育環境	3	
巡回指導	1	
開発的研究	2	
合計	60	(編)

(2) 「気になる」と判断した判断者

対象研究において、「気になる」と判断した判断者は誰なのかを整理した(表2)。結果は以下の通りである。

判断していたのは，保育者(含む保育士)が40編，学生および実習生が4編，小学校教

論が2編，保護者が1編であった。「気になる」幼児と関わる時間が長く，気になり感を一番感じやすい状況から保育者が主体となって研究を発表している現状である。

表2 「気になる」子どもの判断者

保育者（含む保育士）	40
「気になる子」を担当している保育者	2
園長および保育経験30年以上の保育者	1
学生および実習生	4
小学校教諭	2
乳児検診を受診した保護者	1
実験的データ	1
記述なし	9
合計	60

(3) 「気になる」子どもの呼称と「気になる」の用語の示す意味

「気になる」子どもの呼称については様々な言葉が使われている。表3に「気になる」子どもの呼称，表4に「気になる」という用語の示す意味を示した。

「気になる」子どもの呼称使用は，9割であり54編，その他の呼称には，発達に関連づけた呼称や個別な配慮として保育者の支援のあり方を呼称に用いていたものは5編であった。

表3 「気になる」子どもの呼称

代表的な呼称		同分類と考えた呼称
気になる子ども	54	気になる子ども ちょっと気になる子ども 気になる幼児 気になる子どもたち
その他の呼称	5	発達の気になる子 発達障害につながった特徴をもった子どもたち 個別的な配慮を要する子
呼称なし	1	

表4 「気になる」という用語の示す意味

分類項目	示す意味
保育者や学生の判断 (20)	保育者が気になると感じた幼児 (11) 複数の保育者が気になると認めた子 保育者保護者市民が感じた気になる子 対応の困難を感じた幼児 (3) 障害児を除く実習生が気になると感じた幼児 実習生が気になると感じた幼児 教師が気になるとした子 インタビューで「気になる」とされた子
対人関係や行動との関連 (17)	周りの人や物との関わりが上手くできない子 (2) 障害には入らないが、関わりの難しい子 対人関係に障害のある子 (2) 衝動性、自制心の弱さのある子 その子特有の手続き (メカニズム) の解釈の難しい子 行動上の問題が気になる子 (2) 落ち着きがなく座って保育者の話を聞くことができない子 保育場面で「気になる」と言われた子 周囲との関係から目立って気になっている子 人との関わりが気になる子 保育者の者の見方や考え方と減少として認知される子どもの行動との「認知的ずれ」のある子 個別的な配慮を要する子ども (2)
障害との関連 (12)	障害、発達的に問題があると認識した子 (3) 障害 (LD, ADHD, アスペ) のある子 (2) 障害児保育と保育者の認識した子 広汎性発達障害の子 ことばの教室に通級している子 軽度発達障害を含む障害児およびその疑いのある子 (4)
その他 (8)	保育教育モデルにそわない子 障害児、気になる子のイメージに合う子 (2) 園で保育できないとされた子 一般的な気になる子 (4)
保育者等教育主体者の判断 (1)	保育がしづらく、行動でも特異な面が目立ち、対応に配慮が必要とされる子

※複数の扱いがあった項目は、項目の最後尾にその総数を列記した。数記入の無い項目は、1である。

「気になる」の用語の示す意味は、各文献毎に様々であった。対人関係や行動の不具合や困難を感じた意味を示している研究が多い。保育者や観察者が判断したという意味を示している研究はそれ以上の数であったが、保育者や観察者が判断した背景には、対人関係

や行動の不具合や困難があるという意味を示しているのではないかと推測できる。また、実際に障害と関連づけた意味で用いている研究もあったが、障害についての診断のない状態であっても医学的、教育的な知見を保育等の場面で用いていくことが、対象児の実態を表す言葉として最も適していると判断できたからであろう。

(4) 具体的な行動

「気になる」子どもの示す行動は具体的にはどのような行動を示しているのだろうか。対象研究で扱われていた行動を分類し、傾向を整理した。

表5 「気になる」子どもの具体的な行動

抽出研究												
No.	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
6	7	1	3				2	1				2
7	4	3	2			2	1	1				
9	3	1	1				2	3		1		
11	1							1		1		
12	9	2	2			1		5		1		1
16	1											
17	13	1	1		1		1		1			2
18	3	1										1
19	2	2	3		2	1	2					
22		1	2				2			1		
23	3	1	2				1					1
26	5		3			1	1					1
28									1			
29	3	1	2									1
33			2				1					
36	1											
38	2	3									1	1
39	5		1									2
40	1											1
41			1									2
42	2	1										
43	1							1				
44			1									
45	1							1				2
47	1		1							1		2
49	2									1		
55	3	1	3		2	2		2		1		1
59	2	1	3									1
60					1							
計	75	20	33	0	6	7	13	15	2	7	1	21

A：対人的トラブル B：落ち着きのなさ C：情緒不安定
D：情緒不安定/落ち着きのなさ E：状況への順応性の低さ
F：ルール違反 G：衝動性 H：認知面 I：家庭環境
J：こだわり K：興味関心 L：特徴的行動

行動分類は、本郷（2006）で活用されている「気になる」子どもの行動チェックリスト（D-3様式）を用いた。これは、日常生活で保育者が「気になる」と感じる項目を記録して作成したものである。基本項目は、対人的トラブル、落ち着きのなさ、状況への順応性の低さ、ルール違反、衝動性の5項目からなっている。

表5の番号（No.）は調査対象研究一覧の番号であり、A～Lは、「気になる」子どもの具体的な行動を示している。

具体的な行動では、「対人的トラブル」が最も多く75件、「情緒不安定」が33件、「特徴的行動」が21件、「落ち着きのなさ」が20件の順に多かった。「気になる」の用語の示す意味でも明らかであったように、対人的トラブルに最も多くの具体的な行動があげられていることがわかる。情緒不安定や落ち着きのなさも対人的トラブルの原因となることが多く、特徴的行動では、コミュニケーション場面で表情の変化が乏しかったり、視線が合わない等の障害特性に挙げられている行動と重なるものがあげられている。

Ⅲ. まとめ

「気になる」子どもの「気になる」行動から3点の傾向が考えられた。

①保育者らは、「気になる」行動等が始まることで、「気になる」子どもと捉えるようになったのではないか。

気になる子どもが初めから存在していたのではなく、「気になる」行動や「気になる」諸要因等があることによって、「気になり」感がなかなか解消されず、「気になる」子ども」という呼称を使うことで、子どもの気になり感を共有していくことができると考えたのではないか。

②「気になる」行動の原因や背景が曖昧で、どのような対処をしていくことが望ましいのかが明確につかめない現実がある。

「気になる」行動の特徴を捉えようと、衝動的、落ち着きが無く、情緒が不安定な行動であると考えられる。また、「気になる」行動から、対人的トラブルが多く、「気になる」行動のみの対応ではなく、集団に悪影響を及ぼしているという特徴があり、保育者の対処が複雑で偶発的になりがちであることが考えられる。個別的な支援を考えると共に、集団としての保育活動への影響を鑑みた支援を考えていかなければならないという複雑な難しさがあることがわかる。

③「気になる」子どもの難しさがある。

「気になる」子どもは、その行動の特徴がつかみにくく、障害なのか、発達の遅れなのか判断しにくい年齢であることがあげられる。その判断の難しさが、保育の難しさにつながっている。また、保護者と保育者の「気になり」感の格差も具体的な支援を考えていくための壁になることが考えられる。

「気になる」子どもの存在は、保育者が幼児との関係を作っていく際に、上手に関係を築けないことや、幼児間関係づくりにも影響を与えていると考えられた。ある研究には、『保育者が気になる子どもは、幼児全員です。しかし、「気になる」子どもは、その気になる方が少し違うことから始まります。』と書かれていた。どの子どもにも「気になる」行動は存在しているが、その「気になり」感の違いを具体的に整理していくことが必要であると考えられた。

保育者が幼児を対象に行う保育の流れの中で、集団生活を第一に考えるのではなく、個々の幼児のニーズをもう一度整理し、そのニーズに迫れる環境を共有していくことが望まれるのではないかと考える。そして、その実践の経過を詳細に報告し合い、保育者が共に学び合える場を提供していくことが必要であると考えられる。

付記

本論文は、平成20年度山梨大学大学院教育学研究科修士課程障害児教育専攻障害児教育専修「修士論文」を一部修正、加筆したものである。

引用文献

- 1) 本郷一夫（2006）保育の場における「気になる」子どもの理解と対応－特別支援教育への接続－。ブレーン出版。

分析対象の研究一覧

- 1) 植木克美・後藤広太郎・後藤恵美子・後藤守（2004）「保育にあたって気になる子ども」の様相と保育臨床支援（Ⅰ）－保育者からみた「気になる子ども」の内包的意味世界－。日本特殊教育学会第42回大会発表論文集，P2-159.
- 2) 後藤恵美子・後藤広太郎・植木克美・後藤守（2004）「保育にあたって気になる子ども」様相と保育臨床支援（Ⅱ）－保育者が捉えた“さまざまな子どもと一緒に保育環境”について－。日本特殊教育学会第42回大会発表論文集，P2-160.
- 3) 後藤守・後藤広太郎・後藤恵美子・植木克美（2004）「保育にあたって気になる子ども」の様相と保育臨床支援（Ⅲ）－保育担当の描くこれからの保育に求められる保育者像－。日本特殊教育学会第42回大会発表論文集，P2-161.
- 4) 嶋野重行（2007）「気になる」子どもの研究（1）－短期大学生が幼稚園教育実習でとらえた気になる子どもの姿－。日本教育心理学会総会発表論文集，49，410.
- 5) 野村朋（2007）衝動性が高い子どもにおける自制心の形成過程－集団保育実践のあり方の検討－。大阪健康福祉短期大学紀要，5，103-110.
- 6) 鑑さやか・千葉千恵美（2006）社会福祉実践における保育士の役割と課題～子育て支援に関する相談援助内容の多様化から～。保健福祉学研究，4，27-38.

- 7) 結城孝治 (2006) 「気になる子ども」の発達支援に向けてー障害児保育巡回相談指導における保育的観点からのアドバイザー。 國學院短期大学紀要, 23, 115-136.
- 8) 三木紀佳・九門さほ・糠野亜紀・新谷公朗・金田重朗 (2005) 保育者の「気づき」を喚起する行動量に視点をのいた観察手法の提案。 電子情報通信学会技術研究報告.
- 9) 後藤広太郎・高久宏一・後藤守 (2004) へき地保育所の受容的保育環境に関する発達臨床心理学的アプローチー「気になる子ども達」に対する保育者の保育姿勢の分析を通してー。 へき地教育研究59, 115-126.
- 10) 小松歩 (2004) 「気になる子への見かた, かかわりかたを具体的に考える」。 白梅学園短期大学公開講座研究年報, 9, 80.
- 11) 小林優子・増田美知子・茶木弓 (2004) 「気になる子」の保育を考える。 白梅学園短期大学研究年報, 9, 76-77.
- 12) 倉光美保 (2004) 保育者の抱く「気になる子ども」の特徴に関する基礎的研究。 日本保育学会大会発表論抄録, 57, 820-821.
- 13) 西澤直子 (2004) 「気になる子ども」に対する支援・配慮の調査～市内保育所に対するアンケート調査より～。 日本保育学会大会発表論文抄録, 57, 304-305.
- 14) 堀 智晴 (2004) 保育実践研究法ー「気になる子」の保育を考えるー。 日本保育学会大会発表論抄録, 57, 302-303.
- 15) 村瀬あや子・後藤智子・角田春高 (2004) 気になる子どもと保護者への対応。 日本保育学会大会発表論抄録, 57, 166-167.
- 16) 伊藤美佳・小林牧子・糸洲理子・瀧川光治 (2004) 保育者にとって「気になる子ども」の仲間関係の分析ー関係活動モデルによる4歳児2名の継続観察よりー。 日本保育学会大会発表論文抄録, 57, 162-163.
- 17) 中 典子・伊藤順子 (2004) ちょっと気になる子どもー保育者養成校における学生の観察記録よりー。 日本保育学会大会発表論抄録, 57, 154-155.
- 18) 浜名紹代 (2004) 親が育てば子ども育つー気になる子の親との関係ー。 日本保育学会大会発表論抄録, 57, 878-879.
- 19) 吉田耕一郎 (2004) 「気になる子」への保育現場での臨床発達心理学的アプローチ。 國學院短期大學紀要, 21, XCIX-CIX.
- 20) 小林歩・師岡章・村田保太郎 (2003) 「気になる子への見かた, 関わり方を具体的に考える」。 白梅学園短期大学研究年報, 8, 55.
- 21) 海野美代子・海野展由・伊井万澄・諏訪きぬ・土方弘子 (2003) かかわる力の発達と保育の質に関する研究[Ⅲ]かかわる力の発達に及ぼす要因の分析と保育のあり方ー発達のな姿として気になる子の事例的分析から見えてきたことー。 日本保育学会大会発表論文抄録, 57, 70-71.
- 22) 松田恭子 (2003) 小学校通常学級における「気になる子どもたち」の6年間を追って。 情緒障害教育研究, 22, 179-188.

- 23) 木村歩美・岩崎礼子（2002）2つの出会いと子どもの変容（1）～ちょっと気になる子ども」の変容から学ぶこと～. 日本保育学会大会発表論文抄録, 55, 658-659.
- 24) 矢野由佳子（2002）保育園でのコンサルテーション活動と観察法. 日本保育学会大会発表論文抄録, 55, 366-367.
- 25) 高階恵子・石岡由紀・七木田敦（2002）ちょっと気になる子どもへの理解のしかたについて－障害に関する知識と判断－. 日本保育学会論文抄録, 55, 116-117.
- 26) 角田春高（2001）気になる子の事例研究に取り組む幼稚園（現職教育）への援助事例－臨床学的発達論の構築に向けて（第15報）. 日本保育学会大会発表論文抄録, 54, 166-167.
- 27) 増田貴人・水内豊和・七木田敦（2001）保育者の「ちょっと気になる子ども」に対する意識について－保育者の保育観による分析－. 日本保育学会大会発表論文抄録, 54, 408-409.
- 28) 水内豊和・増田貴人・七木田敦（2001）継続的観察による「ちょっと気になる子ども」の変容過程－「保育者－子ども」の関係論的視点から－. 日本保育学会大会発表論文抄録, 54, 60-61.
- 29) 小川圭子（2001）保育者の子ども理解に関する一考察（1）－気になる子どもを受容する過程－. 日本保育学会大会発表論文抄録, 54, 716-717.
- 30) 野口隆子・安見克夫・秋田喜代美（2001）職員会議におけるメンタリングー“気になる子”をめぐる語りの分析－. 日本保育学会大会発表論文抄録, 54, 408-409.
- 31) 杉原一昭・桜井茂男・赤石元子・岩立京子・野口司・松尾直博（2000）子どもの問題行動の背景にあるもの. 日本教育心理学会総会発表論文集, 42, S62.
- 32) 井口 均（2000）保育者が問題にする「気になる子」についての傾向分析. 長崎大学教育学部紀要－教育科学－, 59, 1-16.
- 33) 木村鈴代・青山優子・瀧信子（2000）保育士から見て気になる子への表現活動を通じたアプローチについて－幼児一人ひとりが集団の中で育ち合う場面を通して－. 日本保育学会大会発表論文抄録, 53, 832-833.
- 34) 増田貴人・七木田敦（2000）保育園における「ちょっと気になる子ども」の観察事例に関する記述－不器用さの目立つA児の変容過程－. 幼児教育研究年報, 22, 71-77.
- 35) 木原久美子（1999）大学生が描いた「障害児・気になる子と私の絵」－「教育相談」の授業開始時と終了時のイメージ－. 日本教育心理学学会発表論文集, 41, 573.
- 36) 刑部育子（1999）保育園における「ちょっと気になる子ども」の参加過程. 日本保育学会大会発表論文抄録, 52, S35.
- 37) 吉村智恵子（1999）幼児に対する理解と態度の関連－教育実習生の視点－. 名古屋女子大学紀要, 45, 111-120.
- 38) 寺見陽子（1999）保育者のかかわりと子どもの育ちに関する事例研究（I）－気になる子どもに対する保育者の心持ちと子どもを受容する過程－. 神戸親和女子大学児童

- 教育学研究, 16, 114-133.
- 39) 五藤葉子・石場尚子 (1996) 園生活で気になる子どもたち. 日本保育学会論文抄録, 49, 440-441.
 - 40) 前原寛 (1994) 気になる子を捉える視点—子どもを取り巻く状況を中心として—. 日本保育学会大会発表論文抄録, 47, 514-515.
 - 41) 梅田優子・大場幸夫 (1994) 保育者が気になる子どもを捉える視点としての関係性について (3). 日本保育学会大会発表論文抄録, 47, 86-87.
 - 42) 小池みさを (1991) 保育者の感性「気になる子ども」について. 日本保育学会大会発表論文抄録, 44, 122-123.
 - 43) 刑部育子 (1998) 「ちょっと気になる子ども」の集団への参加過程に関する関係論的分析. 発達心理学研究, 9, 1, 1-11.
 - 44) 堀越紀香 (2003) ふざけ行動にみるちょっと気になる幼児の園生活への対処. 保育学研究, 41, 1, 71-79.
 - 45) 藤村美保子・杉山育代 (1999) “ちょっと気になる”子どものコミュニケーションの支援について. 岐阜大学教育学部障害児教育実践センター年報, 6, 31-49.
 - 46) 香川大学教育学部附属教育実践総合センター学習困難児への教育支援研究プロジェクトチーム (2000) 学習困難児に対する教育支援活動:実態と意識調査. 香川大学教育実践総合研究, 1, 151-164.
 - 47) 木原久美子 (2006) 「気になる子」の保育をめぐるコンサルテーションの課題—保育者の問題意識と保育対処の実態をふまえて—. 帝京大学文学部教育学科紀要, 31, 31-39.
 - 48) 後藤広太郎・後藤恵美子・植木克美・高橋敏憲・後藤守 (2004) 保育所・幼稚園訪問方式による保育臨床支援の試み (I) —「気になる子どもたち」に対する保育現場の受容的風土に関する検討—. 北海道教育大学教育実践総合センター紀要, 5, 193-202.
 - 49) 請川滋大 (2006) 保育者は“気になる子”をいかに支えているか—入園時からの縦断的観察を通して—. 日本女子大学紀要家政学部, 53, 23-33.
 - 50) 嘉数朝子・財部盛久・上地亜矢子・石橋由美 (2007) 保育者の「ちょっと気になる子」の認識と保育に関する研究 I —子ども観との関連で—. 琉球大学教育学部紀要, 70, 25-35.
 - 51) 山本理絵・神田直子 (2008) 幼稚園・保育所における軽度発達障害に対応する支援体制の実態と課題. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 070, 200.
 - 52) 神田直子・山本理絵 (2008) 軽度発達障害につながる特徴をもった子どもの親の子育て不安—幼児から小学校移行期において—. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 071, 201.
 - 53) 坂鏡子・石田慎二 (2008) 個別な配慮を要する子どもに対する支援 I —保育所調査の結果を中心に—. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 212, 342.

- 54) 石田慎二・坂鏡子（2008）個別な配慮を要する子どもに対する支援Ⅱ－小学校調査の結果を中心に－. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 213, 343.
- 55) 荒井まこよ・井上裕子・下里里枝・勝木洋子（2008）気になる子どもの保育と可能性－安定した発達環境を求めて－. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 067, 197.
- 56) 大島剛・西村真実・安梅勅江（2008）「根拠に基づく保育」の推進に向けた「気になる子」への保育プロセス1. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 210, 340.
- 57) 西村真実・大島剛・丸山昭子（2008）「根拠に基づく保育」の推進に向けた「気になる子」への保育プロセス2. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 211, 341.
- 58) 大瀧智子・菱谷信子・上村初美 日野多加美（2008）「気になる子の実態調査」から見える今後の課題（1）. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 346, 476.
- 59) 日野多加美・菱谷信子・上村初美・大瀧智子（2008）「気になる子の実態調査」から見える今後の課題（2）. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 347, 477.
- 60) 小林みどり・田中亨胤（2008）気になる幼児とのかかわりにおける保育者との関係構築. 日本保育学会第61回大会発表論文集, 064, 194.